

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」を教育目標とし、教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な指導により生徒が学ぶ喜びを経験し、社会に貢献できる力をもった生徒を育みます。学び直しや昼間働くなど様々な条件の中で、「過去は変えられないが未来は変えられる」と強い意志を持ち、夜に学ぶ必要のある生徒を応援します。「三国丘の定時制の生徒なら大丈夫」と学校内外から評価・信頼される学校をめざします。

- 1) 学業と仕事を両立し、休まずに毎日の授業を大切にする生徒を育てます。
- 2) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、他者を思いやり、ルールを守って主体的に行動ができる生徒を育てます。
- 3) 丁寧な個別指導、キャリア教育を通して、社会に貢献できる生徒を育てます。

## 2 中期的目標

## 1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）

(1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。

ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科では習熟度別授業を実施し、モジュールを組み入れ、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。

イ ICT 機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。

※学校教育自己診断の生徒の授業満足度(平成 30 年度 74%)を毎年引き上げ、2021 年度までには 80%をめざす。

(2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供・理解させる。

ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及び進路説明会を実施する。

イ 年次に応じたキャリア教育を実施することで、進路意識の段階的醸成を図る。

(3) 進路指導體制の強化により、進路実績の向上をめざす。

ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた指導體制により、確実な進路実現を図る。

イ 3 年間または 4 年間を見通したキャリア教育を推進し、卒業後の進路決定に向けた意識を高める。

※2021 年度も学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（卒業生総数に対する割合）90%以上をめざし、若年無業者 10%未満を維持する。

## 2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）

(1) 「社会で正しく生きる」ために、他者を尊重する姿勢を身につけさせる。また、地域交流を通じて自己有用感を高める。

ア 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。

※平成 30 年度は地域清掃活動を年 4 回（夏季と冬季に各 2 回）、地元保育園等との交流を年 2 回（夏季と冬季）実施した。2021 年度に向け継続する。

(2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることを気づかせ、すべての命を大切にする教育を行なう。

ア 社会に生きる多様な人たちと出会う人権学習を行う。

イ 生徒並びに教員の健康・環境衛生の意識・関心を高める。

※平成 30 年度は学年単位での人権 HR を 2 回、人権フィールドワークを 1 回実施した。2021 年度に向け教職員人権研修を含め、より内容を充実して継続する。

(3) 体育祭や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。

ア 総合学習「ふるさと堺探検隊」の高い参加率（平成 30 年度 89%）を定着させ、事業主、保護者の理解を得て、2021 年度でも 85%以上の維持をめざす。この行事の実施により、仲間と協同して堺の歴史と文化を学ぶとともに郷土愛を育む。

イ 体育祭、文化祭などの高い参加率（平成 30 年度 85%）を定着させ、2021 年度でも 80%以上の維持をめざす。これらの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。

(4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。

ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。

イ 学校の課題解決に向け、教職員の専門性を高めるため、外部機関との連携を図り、教職員向け課題研修を充実させる。

※平成 30 年度は教職員研修を 8 回実施した。今後も外部機関との連携を図り、2021 年度でも研修年 5 回以上の実施定着を図る。

※最後まであきらめさせない指導により年度末の進級・卒業率（進級・卒業生徒数／在籍数）を 2021 年度に向けて 75%以上を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒アンケート】 「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」という項目や、「授業はわかりやすく楽しい。」という項目、及び「教え方に工夫をしている先生が多い。」という項目が低下している。これは、教員の 3 分の 1 近くが昨年度から入れ替わったことも要因の一つではないかと推察される。新しく赴任してきた教員が本校での経験の長い教員と情報共有できる機会を増やすなど、生徒理解力や授業力向上にむけて積極的に取り組んでいく必要がある。 「先生ははじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」という項目や、「授業や総合学習では将来の進路や生き方について考える機会がある。」という項目では昨年度より肯定率が上昇している。教育相談体制の充実や進路指導・キャリア教育への取組みに成果が表れてきたと推察できる。</p> <p>【保護者アンケート】 保護者アンケートについては、総じて高い評価を頂いているが、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」と答えた割合が昨年度より大幅に低下し、今年度は 5 割を切っているという結果については、生徒アンケートと共通した課題である。これに対し、「子どもの学習内容に満</p>	<p>第 1 回 令和元年 7 月 20 日開催 学力の定着と伸長については、ベーシック教養の受講前後における生徒の学力を検証しているのは非常に良いことだと思う。学力の向上が目に見えるのは生徒にとっても、実施している教員にとっても大変うれしいことであると考えられる。 教育相談体制や個に応じた支援体制の充実については、不登校を経験している生徒は「できた」という経験が少なく、自分に対する期待が持てていないように感じる。定時制高校において基礎学力の向上や教育相談分野を充実させることは、生きる力や人格の基本を培っていくことに繋がると思う。さまざまな課題を抱えた生徒がいるが、たくさんの情報が入っていることによって、情報過多になりがちである。あらゆる方法を試すことは大切だが、必ず中心には生徒自身がいることを忘れないように指導して欲しい。</p> <p>第 2 回 令和元年 10 月 30 日開催 授業見学ではみな生徒たちは熱心に授業を聞いていたし、ICT を活用した授業がなされ</p>

## 府立三国丘高等学校 定時制の課程

足している。」と答えた割合が77.8%で昨年度より上昇している。授業や学習内容についての満足度が子どもの意見と保護者の意見で異なる傾向となっていることがわかる。

## 【教職員アンケート】

学習指導については、「年間の学習指導計画について各教科で話し合っている。」という項目が昨年度より14.7ポイント低下し、過去7年間で最低となっている。新教育課程に向けて、カリキュラムマネジメントの視点から教科の垣根を超えた学習指導計画の見直しを図っていくことが必要であると考えられる。これに対し、校内公開授業等を積極的に推進し、教員相互の授業検討の機会を持ち、教材や指導方法など授業改善に取り組んでいるという項目やコンピュータ等のICT機器が授業などで活用されているという項目については教職員の評価は高い。

また、「到達度の低い生徒に対する学習指導について全校的課題として取り組んでいる。」という項目や、「生徒の障がいや実態の多様化に対応した教育活動を行っている。」という項目、及び「すべての教育活動において人権尊重に基づいた指導が行われている。」といった項目が昨年度より低下している。これは、様々な配慮を要する生徒の割合が増加する中、学校として十分対応しきれていない状況にあることに対する教職員の危機感の表れであると解釈できる。このような課題を解決するために、人的支援の方策について模索するとともに、教職員研修の充実や他校の実践例などの情報収集を行っていくことが必要である。

「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている。」という項目については、昨年度と一昨年度は肯定率が100%であったが今年度は90.5%に低下している。学校行事についても、生徒の満足度向上と教員の働き方改革とを両立させつつの見直しを行っていく必要がある。

「学校（教員）は組織として『報告・連絡・相談』が徹底されている。」という項目と、「教員間の相互信頼があり意見を率直に言える環境、雰囲気である。」という項目について、昨年度より低下している。このことは、学校組織としての大きな課題であり、今後教員間の意思疎通が活発に行われ、教員どうしが互いに信頼しあえる風通しの良い学校風土づくりが課題であるということが浮き彫りになっている。一方、「学校運営に教職員の意見が反映されている。」という項目については、昨年度より17.5ポイント上昇しており、改善傾向が見られる。

生徒指導面については、「教育相談体制が整備されており生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。」という項目については肯定率が過去7年間で昨年度のみ100%を割り込んだが今年度は100%に戻った。それ以外の「本校ではカウンセリングマインドに基づいた生徒指導を行っている。」という項目や、「いじめが起こった際の対応が整っており迅速に対応できる。」という項目、「教育活動において命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るように配慮している。」といった項目については昨年度同様教職員の評価は高い傾向にある。また、進路指導に関する項目についても教職員の評価は高い。

各項目の肯定率の経年変化から読み取れる本校の現状と課題、及びアンケートに記載していただいた様々な提言内容を踏まえて、次年度以降の学校経営の改善に努めていきたい。

ていたに思える。今後もICTを利用した調べ学習にも取り組んでほしい。また、放送研究会の作成したVTRにもあったように、本校でもいろいろなルーツを持つ生徒が学んでおり、さまざまな人と接する機会があるのは定時制の利点だと思う。今後も生徒の多様性を生かしつつ、異なる文化について学んだり、自分のルーツである他言語について共に学ぶ仕組みづくりについて検討して行ってほしい。今年度より配置されたスクールソーシャルワーカーの有効な活用方法の検討についても引き続き取り組んでほしい。

## 第3回 令和2年2月5日開催

「子ども食堂」のFWを通じて支援を受けられる場を知らない人について教職員が良い取り組みである。このような機会を利用して、これまで学びたくても学ぶことができなかった人の再スタートの場としての定時制高校の存在を、実際に「子ども食堂」の運営など地域の福祉を担っている方々を通じて多くの人に紹介してもらえるようお願いするなど広報活動を積極的に行ってほしい。

地域のボランティア活動などの体験活動についても、教師が押し付けるのではなく生徒が自主的に参加するようなきっかけづくりを行うことによりいろいろなことを学べる機会を作ってほしい。

一度は途中であきらめた人や社会に出てから学び直したい人に対しても、学び直そうと思えばいつでも学び直せたり、働きながら学ぶこともできる間口の広い学校としての定時制高校の存在を守り続けるとともに、様々な学び直しに幅広くこたえられる色々な特徴を持った学校を増やして行ってほしい。

個別の対応が必要な生徒が増加する中、不安定な状況に対しても安定して一貫した対応ができるよう教職員のスキルの研鑽に努めてほしい。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力伸長と進路実現 本校のキャリア教育の確立	(1) 学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用  イ 学ぶ意欲を引き出す  ウ わかりやすく楽しい授業をめざして  エ 基礎学力の定着・向上  (2) 年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制  イ キャリア教育の推進	(1) ア・授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートを活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議を実施する。  イ・多岐にわたる総合講座等を実施し、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。  ウ・わかりやすく楽しい授業をめざし、ICT機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。  エ・英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。  (2) ア・進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。  イ・多様な生徒のニーズに応えるべく、進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。  ・進路意識の段階的醸成をめざしたキャリア教育を実施する。	(1) ア・年2回以上研究授業を行う。  ・授業アンケートを年2回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。  ・授業力向上を行うための仕組みを作る。  イ・図書室の有効活用。年度末のアンケート(H30年度88%)で肯定的評価70%をめざす。  ウ・生徒の自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率(H30年度74%)75%。 ・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率(H30年度78%)80%。  エ・基礎学力診断テスト(1年国・数・英)の4月から2月での伸長度30%増とする。  (2) ア・進路・担任合同会議を定期的(年5回以上)に開催。  イ・1・2年次生への進路説明会を年2回、卒業学年への進路説明会を年3回実施。  ・各学年に応じたキャリア教育を年3回実施。	(1) ア・初任者が研究授業を2回ずつ(うち1回ずつは公開研究授業)実施し、それ以外にも1回実施した。(◎) ・授業アンケートを7月と12月に実施した。学校平均は前期3.11後期3.25(◎) (昨年前期3.18後期3.11) ・授業力向上のため、教員間の授業見学月間を6月と1月に実施し、参考になった点やアドバイスを担当教員に伝えてもらった。また、授業アンケートの結果をもとに振り返りシートを作成してもらい、授業力向上を図った。(◎)  イ・図書室の活用については、国語と地歴・公民の授業で調べもの学習等で活用した。(○)自己肯定感については年度末の新型コロナウイルス感染症に伴う休業のためアンケートを実施できず。  ウ・「授業はわかりやすく楽しい」64.9%(昨年度比△8.6P)(△) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」69.1%(昨年度比△8.7P)(△)  エ・基礎学力診断テスト(1年国・数・英)の4月から2月までの伸長度19.1%増となり、一定の向上が見られた。(○)  (2) ア・これまで進路・担任合同会議を8回行った。生徒の情報共有ができた。(◎)  イ・1・2年次生には2回(6月・2月実施予定)。卒業学年には4回(4月・5月・6月・7月)実施。各説明会が生徒にとって進路選択をするためのいい機会となった。(◎)  ・1回目は6月に実施(1・2年次生:進路指導の概要、3・4年次生:求人票の見方・就職におけるルール)。2回目は12月に実

府立三国丘高等学校 定時制の課程

	<p>(3) 進路実績の向上 ア 広報活動</p> <p>イ 応募前職場見学の実施</p> <p>ウ 個別指導体制</p> <p>エ 卒業予定者の若年無業者の減少</p>	<p>(3) ア・積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする</p> <p>イ・学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。</p> <p>ウ・進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。</p> <p>エ・ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。</p>	<p>(3) ア・卒業生の進路先などを更新し、毎年新たな広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。</p> <p>・学校 web ページ、LINE@、准校長ブログを月 2 回更新。</p> <p>イ・就職希望者全員に応募前職場見学を実施。</p> <p>ウ・就職・進学希望者全員への面談を実施。 ・履歴書講座の実施。</p> <p>エ・若年無業者（進学・就職等を希望しない生徒を除く）の割合（H30 年度 0%）10%未満を維持。</p>	<p>施（1 年次生：一般職業適性検査、2 年次生：専門学校による出前授業、3・4 年次生：社会人になるにあたって）。3 回目 1 月に実施（1 年次生：卒業生講話、2 年次生：マネー講座、3・4 年次生：社会保険労務士による講話：労働条件等について）。各学年の課題に応じた内容の取組みができた。 (◎)</p> <p>(3) ア・学校説明用リーフレットについて時点変更を行った。企業開拓のために、ハローワーク堺に学校パンフレット及びリーフレットを 50 部配布。中学校訪問等で学校説明に活用 (◎) ・本校 web ページを学校行事がある月には適時更新中。(△) LINE@ を使った情報提供を 4 月から 1 月までで 6 回実施済。(△) 准校長ブログを 4 月から 12 月までで 29 回更新済。(◎)</p> <p>イ・就職希望者全員が応募前職場見学に参加した（5 名の生徒が延べ 12 社に見学）。複数社に見学することを条件とすることで進路決定がスムーズにできた。(◎)</p> <p>ウ・就職・進学希望者全員への面談を実施。個々の事情に応じた相談や指導ができた。(◎) ・7 月に実施。生徒の意欲向上に効果があった。(○)</p> <p>エ・若年無業者は 0%。(○)</p>
<p>2 心の教育の充実 モラル教育に重点を置いた教育体制の構築</p>	<p>(1) 他者を尊重する姿勢の育成 ア 生徒会中心にボランティア活動の実施 イ 地域交流の推進</p> <p>(2) 人命尊重の教育の推進 ア 多様性を学ぶ人権学習を実施</p> <p>イ 健康への関心を高める</p> <p>ウ 美化意識を高める</p> <p>エ 健康診断受検率の維持</p> <p>オ 歯・口腔への関心を維持する</p> <p>カ 働き方改革の実行</p> <p>(3) 各種行事の参加により自尊感情を高める ア 郷土愛を育む</p> <p>イ 仲間との交流により豊かな心を育む</p> <p>(4) 教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 三国丘（定）の存在を地域にアピール</p> <p>イ 支援を必要とする生徒の情報共有</p> <p>ウ 外部機関との連携強化</p> <p>エ 日本語支援の必要な生徒の困り感を解消</p> <p>オ 相談機関との連携</p> <p>カ 学校課題解決に向けて</p>	<p>(1) ア・生徒会中心に、地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。</p> <p>イ・地元保育園との交流活動を計画・実施する。</p> <p>(2) ア・社会に生きる様々な人たちと出会い深く考える研修や人権学習を企画する。</p> <p>イ・生徒の健康・環境衛生への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。</p> <p>ウ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。</p> <p>エ・疾病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を維持する。</p> <p>オ・う歯の減少と歯周疾患の予防の為、ブラッシング講習を実施する。</p> <p>カ・教職員の心と健康を守るため、長時間勤務の是正を図る。</p> <p>(3) ア・総合学習「ふるさと堀探検隊」を通じて郷土愛を育み、地域を知る。</p> <p>イ・体育祭、文化祭などの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。</p> <p>(4) ア・引きこもり、不登校、ネグレクトなど支援を必要とする生徒に居場所・三国丘（定）の存在を地域にアピールすべく広報を強化する。</p> <p>イ・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、SC や SSW を活用し、教育相談委員会を定例で開催する。</p> <p>ウ・帝塚山学院大学大学院と連携し、ハートケアサポーター機能を高める。</p> <p>エ・日本語支援の必要な生徒の困り感を低減する。</p> <p>オ・外部の相談機関等との連携を継続強化する。</p> <p>カ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒会中心に、地域清掃ボランティアの生徒参加者 1 日 10 名をめざし、年 2 回実施。(H30 年度平均 18 名/日参加)</p> <p>イ・地元の保育園との交流の生徒参加者 1 回 7 名をめざし、年 2 回実施。</p> <p>(2) ア・人権教育推進委員会が中心となって教員向け 2 回、生徒向け 2 回実施。</p> <p>・SNS 等情報モラルについて年 1 回実施。</p> <p>イ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行う。生徒アンケートの肯定的評価 (H30 年度薬物 84%) 80%以上めざす。</p> <p>ウ・全生徒による大掃除を年 2 回実施 生徒保健委員会を学校行事時に年間 4 回実施。</p> <p>エ・健康診断の受検率 (H30 年度 95%) の 85%以上。</p> <p>オ・歯・口腔の健康に係る講習を実施し、治療と歯周疾患予防への興味関心を高め、生徒アンケートの肯定的評価 80%以上めざす。</p> <p>カ・毎週金曜日は「定時退庁日」とする。「ノークラブデー」はクラブごとに設定。</p> <p>(3) ア・ふるさと堀探検隊における生徒の行事参加率 (H30 年度 89%) の 75%以上の維持をめざす。</p> <p>イ・体育祭及び文化祭における生徒の行事参加率 (H30 年度体育祭 83%、文化祭 87%) の 80%以上の維持をめざす。</p> <p>・生徒の自己診断「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」(H30 年度 75%)、「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」(H30 年度 79%)の肯定率 80%以上をめざす。</p> <p>(4) ア・教員全体で中学校訪問を行ない、本校の面倒見の良さをアピールする。</p> <p>・近隣の全日制高校に対し、本校の面倒見の良さをアピールする。</p> <p>イ・教育相談委員会を月 1 回以上開催。職員会議等で月 1 回意見交換を行う。</p> <p>ウ・公認心理師候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年 30 回 (H30 年度 44 回) 来校し生徒支援にあたる。</p> <p>エ・日本語支援の教育活動をすすめ、当該生徒の進級・卒業をめざす。</p> <p>オ・外部機関との連携を必要に応じ実施。</p> <p>カ・教職員向け研修（勉強会含む）を年 4 回とフレッシュマン研修を年間 2 回開催。</p>	<p>(1) ア・地域清掃ボランティア（夏季）は 1 日目 12 名が参加。2 日目は雨天で実施せず。(冬季) は 1 日目 10 名、2 日目 12 名が参加。(◎)</p> <p>イ・地元保育園との交流に夏季・冬季ともに 8 名が参加。(◎)</p> <p>(2) ア・教員向け 2 回、生徒向け 2 回実施済。(◎) 【生徒向け】 9/25 各年次単位により実施 1/28 各年次単位により実施 【教員向け】 6/25 「生徒支援のネットワーク ー福祉と教育と連携ー」 8/21 子ども食堂の挑戦と課題、枚方ふれあいたんぼ子ども食堂体験学習 ・(人権・生指) SNS に係る講習は 4/17 に全学年対象に実施済。(○)</p> <p>イ・薬物乱用防止教室は 1/24 に実施し、アンケートの肯定的回答は 91.2%。(◎)。交通安全講習については 7/1 に実施し、アンケートの肯定回答は 87.1%。(◎)</p> <p>ウ・大掃除は 6/11、11/5 に実施。生徒保健委員会は 5/21、9/4、10/29、2/18 に実施。(○)</p> <p>エ・健康診断の受検率 88.8% (◎)</p> <p>オ・今年度は年度途中での学校歯科医の交代があったため、ブラッシング講習を実施できず。(△)</p> <p>カ・金曜日において 1 時間を超える残業を行っている者はいない。(◎) クラブにおいて、すべての部活動において週 3 回以上活動しない日が設けられている。(◎)</p> <p>(3) ア・ふるさと堀探検隊は 10/19 に実施。参加生徒数は 82 名、参加率は 73.2%、当日欠席者への指導は 12/25 に実施済。対象者 24 名中 18 名参加。参加率 75.0%。(△)</p> <p>イ・体育祭参加率 77.0%、文化祭参加率 75.0 (△) ・「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」73.4%「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」75.5%(△)</p> <p>(4) ア・7 月下旬から 10 月中旬にかけて、堺市と近隣 8 市の 58 中学校（うち 1 校は資料送付のみ）を全教職員で訪問。(◎) ・今年度は近隣の全日制高校数校に学校パンフレット等を送付して、本校の概要についての情報提供を行った。(○)</p> <p>イ・月に 1 回教育相談委員会を行った後、次の職員会議で情報共有を行っている。(○)</p> <p>ウ・9 月末までに週 1 回 2 名が延べ 32 回、12 月末までに週 1 回 4 名が延べ 39 回来校していただいた。(◎)</p> <p>エ・外国語を母語とする生徒に対し、国語と社会で抽出授業。各教科丁寧な指導実施(○)</p> <p>オ・今年度は 6/25 の人権進路合同研修で堺市生活援護課や各区のケースワーカーの方を招いての研修と情報交換を行ったりケース会議を外部機関と連携して行うなど外部機関の連携を必要に応じて実施した。(◎)</p> <p>カ・全体研修を 16 回、フレッシュマン研修 2 回実施した。(◎) 主な研修 新着任者研修 2 回 教職員研修 4 回 SSW 関係の研修 2 回 進路関係の研修 2 回 AED 講習会 教育相談関係 新任教諭研修等 3 回</p>

## 府立三国丘高等学校 定時制の課程

	<p>キ 相談しやすい環境づくり</p> <p>ク 編転を除く進級・卒業率向上をめざして</p>	<p>キ・担任、SC、SSW、教育相談委員会の連携システムを強化確立し、生徒が相談しやすい環境づくりを行なう。</p> <p>ク・最後まであきらめさせない個々の生徒への指導・支援により、学校への定着を図り、進級・卒業を支援する。</p>	<p>キ・生徒の自己診断「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」の肯定率（H30年度67%）65%以上をめざす。</p> <p>・SSWを活用する仕組みを作る。</p> <p>ク・年度末の進級・卒業率（進級生徒数／在籍数（5月1日現在））75%以上を維持する。（H29:74%、H30:82%）</p>	<p>人権研修2回 薬物乱用防止研修</p> <p>キ・「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」66.0%（○）</p> <p>・SSWの活用については、教職員研修3回実施してもらうとともに、教育相談委員会に出席して生徒情報を共有して適切な指導への助言をもらう、担任と連携しながら支援の必要な生徒及び保護者へのアプローチや関係諸機関との連携にあたってもらうなどの活用の仕組みを構築した。（◎）</p> <p>ク・年度末時点での進級・卒業率は72.7%（△）</p>
--	--	--	--	---